

平成28年 1月 8日 NO・90

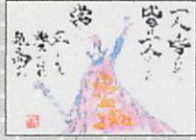
〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
TEL029-269-2116 FAX029-269-3160  
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】



# スピリット

## 常中魂



### 自分を語ることで 《目標をもつことの大切さ》を示す

始業式終了後は、各クラスでは、学級の時間が設定されていました。この時間に各担任たちは、自分自身の今年の目標を生徒たちに話していました。

印象に残ったのは、担任たちが、自分自身の感じ方、考え方を話していたことです。

「どんなことをうれしいと思ひ、どんなことを悲しく思うのか。」その上で、「今年をどういう年にしたいと思うのか。」それを実現するために、「具体的に何をしたいのか。」が語られました。

下の写真は3年2組藤枝学級の様子です。藤枝先生の話や聞く生徒たちの様子を見てください。お話しをする先生の方に意識が向いています。

このような状態が生まれるのは、おそらく教師が、自分自身の生の姿(人間性)を素直に語っているからだと思ひます。『教育は人なり』、まさにその通りだと思ひました。

また、藤枝先生の話や聞きながら、うなずいている生徒が何人もいました。人の話を聴くときに『聴いているよ』というサインとして、うなずきながら聴くことができる生徒が増えてきました。これも常中の日々の努力の積み重ねの成果だと感じます。

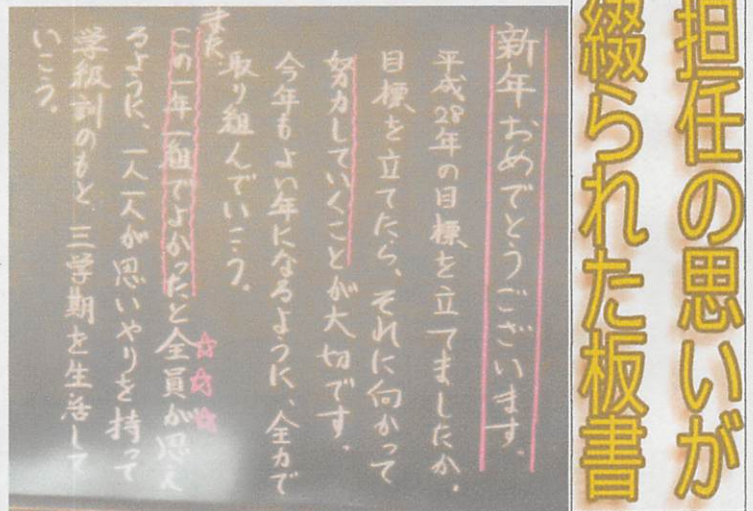


学級の時間の後には、学年集会在開かれました。この時間は、集団の時間として担任だけではなく、学年にかかわる全ての教師の話や聴く時間でした。

2年生の集会で坂田先生は、次のような話をされておりました。『正月元旦は、年賀状を見ていました。中には、昨年度家族にご不幸のあった人、また自分の友達で亡くなった人もいました。そういう現実を思うと改めて、人とのつながりを大切にしたいと思ひました。家族、友達、身の周りにいる人々とのかかわりの中で自分の力を発揮できたらうれしと思ひます。みなさんは、どう思ひますか。』



生徒たちは、教師たちが語るこのような話を聴きながら、『自分には、今年をどんな年にしたらよいか、しっかり目標をもつことが大切だ』と、感じてくれたことでしょう。



### 担任の思ひが 綴られた板書

昨日の始業式前に各クラスをお邪魔した。無人の教室ではあるが、全ての教室に担任たちの思ひが感じられた。どのクラスの黒板にも担任たちから生徒に向けてのメッセージが板書されていたからだ。例えば、一年一組の大貫克則先生のクラスの黒板には、『新年おめでとうございます。平成二十八年の目標を立てましたか。目標を立てたら、それに向かって努力していくことが大切です。今年もよい年になるように、全力で取り組んでいこう。また、この一年一組でよかつたと全員が思ひますように、一人一人が

思いやりをもつて学級訓のもと、三学期を生活していこう。』  
二年二組大貫真菜先生のクラスでは、『明けましておめでとうございます。いよいよ三学期になりました。二年最後の学期です。一人一人が自分の夢に向かって、今できることに精一杯取り組もう。二の二で過ごせるのもあと三か月、一日一日を大切に、まだまだ沢山の思ひ出をつくっていくように。メリハリを忘れないで。今年もよろしくお願ひします。』

とうございます。三学期はみなさんにとつて義務教育のまとめの時であり、飛躍の年でもありますね。それぞれの未来に向かって互いに励まし合いながらラストスパートをかけましょう。今年もよろしくお願ひします。』  
三年二組藤枝馨子先生のクラスでは、『明けましておめでとうございます。二〇一六年、新しい年がスタートしました。どんな一年になるのか、とてもワクワクしてきます。きつと大変なこともあると思ひますが、笑顔で過ごせる日の方が多い一年にしたいです。三の

る日は、残りわずかとなつてしまいました。毎日が充実した中身の濃い三か月になるよう、助け合い、はげまし合つて頑張っていきましょう。』  
三年三組三村将司先生のクラスでは、『あけましておめでとうございます。いよいよ中学校最後の学期がスタートしました。『一日一思い出』一人一人が力を出し切つて、互いに支え合つて、入試を乗り越え、すばらしい卒業式を迎えよう。 We are 二組』